

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		商店街（代表者）	販売量の動き	・雪がなくなり、人の流れが変わった。北海道新幹線の開業1周年効果もみられる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・3月に入ってから、1～2月と比べて消費にやや動きが出てきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3月は売上、来客数共に前年比94%となり、少し持ち直してきている。販売量も前年比98%強と3か月前と比べれば伸びており、1～2月のやや足踏み状態から上向きに転じている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・学校行事や社会行事の関連商材の動きが良く、客単価も前年を上回っている。今まで苦戦していた婦人衣料や紳士衣料も前年を上回っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・競合店の閉店が続いていること、沿岸部での漁の状況が良くないことなど、全体的に悪い状況は続いているが、流氷を観測できる日が前年より多いことで観光客の来客数が増加しており、以前と比べて回復傾向にある。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・先物オーダースーツの受注が前年比110%と比較的好調である。トレンドアイテムが稼働するなど、客の購買意欲が高まっている手ごたえがある。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・競合他社の状況を見ると、各社とも売上が伸びてきている。新型車の効果が市場の伸びにつながってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道という土地柄、2～3月から車が売れ始める傾向がある。今年も販売量が伸びており、景気は上向きになっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・需要を喚起する大型の国際スポーツ大会の影響もあり、高稼働、高収益となった。ただし、いわゆる一般の国内旅行者、ビジネス客、外国人観光客は横ばいであった。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・2～3月と天候が安定しており、例年と比べて雪解けも早いことから、3月に入ってから春休みを利用した団体旅行が好調にスタートしている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3か月前の12月までは前年の台風被害の影響による旅行中止及び自粛ムードが当地域にまん延していたため、販売量に動きがみられなかったが、年明け以降、来客数、販売量とも徐々に上向きになってきており、3か月前よりも景気がやや良くなっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・前年と同様の販売合戦が行われているが、前年と比べて光サービスの販売環境が整ってきていることで、全道的にセット販売が好調に推移している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月26日時点の利用乗降客数は、北海道新幹線の開業があった前年と比較しても106%となっており、単月としての過去最高を記録した前年を上回っている。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・3か月前と比べて明らかに雰囲気良くなってきている。また、1キロ圏内の競合店において、求人募集を行っているサロンが複数みられる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して天候が安定していることで輸送量が増加している。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・これから春に向かって暖くなる季節だが、商店街の中心にあった百貨店の撤退の影響で来街者が減っている。今後への影響が気掛かりである。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の動きは以前と変わらず、変化がみられない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者の来街時刻がやや遅めになっており、昼過ぎから来街する客が目立っていた。中心部を訪れる客のうち、午前中遅くに訪れ、昼食を取った後、買物をして帰宅する、又は買物の後、昼食を取って帰宅する客は通常3割程度であるが、3月は特に平日の午前中のバスの乗降客や駐車場の利用客が少なく、全体的に飲食関連の売上が伸びていない状況にある。	

商店街（代表者）	お客様の様子	・今年の当地は降雪量が少なく、雪解けが早い、気温の低い日が続いていることで春物が全く動いていない。また、農作物の種まきにも低温の影響が出そうであり、経済全体にも影響を及ぼしかねない。
一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・観光地に立地していることもあり、春休みを利用して訪れる国内旅行客の動向に変化はみられないが、外国人客が好調なことから、売上は前年比114.6%となった。一方、地元客相手の商店からは売上減少と人手不足で悲鳴の声が多く上がっている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年を若干下回ったものの、外国人観光客による購買が回復したこともあり、全体売上は前年を上回った。地元客による売上も前年比99.3%とほぼ前年並みであった。春のシーズン替わりに伴うニーズとオケーションニーズが好調に推移しており、中でもラグジュアリー部門が好調であった。ただし、施策変更の影響もあり、ボリュームゾーンの雑貨や紳士物が若干苦戦した。
百貨店（担当者）	単価の動き	・売上や客単価のトレンドがやや悪い状態で変わっていない。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・3月に入り、来客数が増加しており、客単価もプラス傾向にあるものの、購買率がマイナス基調となっていることから、売上は前年と比べて微増にとどまっている。
百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・天候に恵まれ、前年よりも気温の高い日が多いなどの好条件があったにもかかわらず、来客数が伸び悩んでいる。また、例年であれば学生服需要の高い月であるが、今年は制服リレーなどの譲受けが増えていることで苦戦している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・社会行事関連の商材の動きが好調であるなど、良い傾向がみられるようになってきているが、客1人当たりの買上点数が前年を割り込む状況が継続している。
スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、売上の変動は軽微なものにとどまっているが、相場高及びメーカー値上げなどにより商品単価が上昇していることで、2月中旬以降、来客数の減少がみられる。
コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・3月の売上は前年比95%であった。300m離れた競合店が閉店したにもかかわらず、売上アップにつながらなかった。むしろ、同一チェーンの競合店の影響を受けて苦戦している。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・1人立ちセットの販売点数が前年よりも少なかった。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量の動きから3か月前や前年と比較して、景気が上向いているとはいえない状況にある。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出た割に、販売量の伸びがあまりみられない。
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・4月からのタイヤの値上げがあるにもかかわらず、買い控えがみられる。ただ、売上は前年並みの見込みとなっている。新車が前年よりも売れているようであるが、中古車が売れておらず、車の保有台数の全体量が微減していることも影響している。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・3月後半のメニュー内容が良かったためか、来客数が増えて目標以上の販売量となり、全体ではぎりぎり前年並みの売上となった。知り合いのレストランも厳しかったようである。以前であれば、3月は歓送迎会や新入学のグループ、家族の利用でにぎわったが、近年は売上面での期待ができなくなっている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・例年と比べて、前年比の動きに変化がみられない。
タクシー運転手	来客数の動き	・3月は、12月に次いでタクシーの売上が良い月であり、今年のタクシー1台当たりの売上は前年を3%程度上回ったが、乗務員不足の影響でタクシーの稼働率が悪く、全体売上は前年を1.5%下回った。
タクシー運転手	来客数の動き	・観光関係での利用はほぼ前年並みであったが、イベント関係での利用が順調であった。
タクシー運転手	販売量の動き	・販売量が前月並みの水準で推移している。
タクシー運転手	販売量の動き	・販売量に大きな変動がみられない。
通信会社（社員）	販売量の動き	・前年比に大きな伸長はみられなかった。直近の動きも活発化していない。

	美容室（経営者）	販売量の動き	・売上は1～2月よりも良くなっているが、3か月前の12月ほどではなく、前年とほぼ同じような売上になりそうである。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・イベントなどと合わせて来店する客が多く、景気の変化があまり感じられない。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・買上客数の減少に加えて、客単価の低下が目立つ。
	スーパー（役員）	それ以外	・前年は北海道新幹線の開業もあり、活発に人が動いた。今年も色々なイベントが行われているが、前年ほどの盛り上がりが見られない。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・以前にも増してたばこ酒類の販売量が減少傾向にある。特に大容量の酒類の販売量が大きく減少している。その反面、小容量の商材の販売量が大きく伸びており、客単価の低下を招いている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3月の決算期を迎えたが、予想に反し自動車販売の動きが鈍く、予想販売台数の確保が難しい状況にある。
	その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・イベントなどの集客行事を開催しても今一つ顧客の反応が悪く、全体的に客に余裕がなくなっている。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・3月に入り、2月までの閑散期対策の定休日を解除したが、イベント効果に前年ほどの勢いがみられない。スタッフもベテランがいなかったため、回転率が悪く、売上は前年比で14%の減少となっている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年までと比べて、外国人観光客の動向に変化がみられ、小グループ客が中心になってきている。
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・円高が進行していることで、外国人観光客を中心に来客数が伸び悩んでいる。また、地元空港の海外路線が減便された影響も大きい。
	タクシー運転手	販売量の動き	・前年並みの売上を確保できない状況にある。季節要因や天候要因を考慮しても下げ圧力が強い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・積雪が少ないためか、乗客が減少しており、3か月前と比較して売上が3～4%落ち込んでいる。観光客が少ない上、地元客の動きもみられないなど、景気低迷が長引いていることが影響している。この先、春に向かって、客の動きにどのような変化が出てくるのかを注視している。
	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・札幌などの大都市では土地が値上がり傾向にあるが、地方都市では土地が値上がりしていないことから、当地の景気は下向き傾向にある。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンション購入時の商談に要する時間が長くなってきており、客の歩留まり率も低下している。
	x	*	*
			*
企業動向関連	-	-	-
(北海道)	建設業（従業員）	取引先の様子	・建築工事の年度末しゅん工の時期を迎え、特に仕上げ工事や設備工事の労務者は残業をして工事に対応しており、休日も返上している状況にある。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事は災害関連も含めて相応の発注がなされており、今後の予定分も合わせると、良好に推移することが期待できる。民間建築工事も引き続き引き合いが多くみられる。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・新入社員の採用数や設備投資の動向について、企業の積極性が前年より上向いている様子がみられることから、景気はやや良くなっている。
	その他非製造業【鋼材卸売】（役員）	受注量や販売量の動き	・客先の鉄骨加工業の仕事量は堅調に推移している。また、決算対策及び溶接材料値上げに伴う駆け込み需要などで、品薄状況が続いた反動もあり、販売量が急増している。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注状況がやや低調であり、生産ラインに余力があるなど、景況感のやや悪い状況が続いている。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・百貨店は元気のないものの、ハウジングメーカー関連ではそこそこの仕事量があり、全体的には景気は変わらない。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・スポット需要の輸送物件が動き出しているが、期待ほどの忙しさまでは至っておらず、収支的にも変わりがない。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・本州向けの農産物輸送は相変わらず伸びていないが、年度末を迎えて消費財の輸送に動きが出ており、農産物の落ち込み分を補っている。

	金融業（従業員）	取引先の様子	・外国人観光客による消費と公共事業が下支えする状況となっている。個人消費の節約志向は変わらないが、新車販売に明るさがみられるなど、底堅く推移している。総じてみれば、道内景気は3か月前と変わらない水準にある。
	司法書士	取引先の様子	・季節要因もあり、土地取引は若干増加傾向にあるが、建物取引はこれまでと変わらない傾向で推移している。
	司法書士	取引先の様子	・冬期間は積雪の影響で測量ができず、物件の形状も分かりづらくなるため、不動産の取引が減少する傾向にあるが、3月に入り、成約まで至っている例は少ないものの、取引に関連する動きが出ている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、受注量が前年比110%程度で推移している。
	*	*	*
x	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の12月の販売量は前年比マイナス0.2%であったが、3月は前年比マイナス9.1%と大きく落ち込んだ。
雇用 関連 (北海道)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業からの人材派遣、人材紹介へのオーダーが多い。人材派遣では、人材の手当に苦勞しているものの、販売系のオーダーが増えている。また、中途採用についても依頼が多く、企業の求人意欲が旺盛であることがうかがえる。しかしながら、売手市場ということもあり、人材側が企業を選択しているように見え、知名度のない企業は採用に苦戦している状況が続いている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・今まで一度も来校のなかった企業が、採用活動の挨拶に多数訪れている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・ほとんどの業種において労働力不足が顕在化しており、求人を出しても人の採用が困難になりつつある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前月、1年10か月ぶりに前年を上回った新規求職者数が再びマイナスに転じたが、月間有効求職者数が5年4か月連続で減少し、求人倍率が7年連続で前年を上回っていることから、人手不足の状況が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が前年から13.7%減少し、7か月連続で前年を下回り、有効求人倍率も前年から0.13ポイント低下し、6か月連続で前年を下回ったものの、有効求人倍率が1.00倍と引き続き1倍を超える水準にあることから、雇用情勢は引き続き改善している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の主要産業である卸小売業や医療・福祉、宿泊サービス業などの新規求人が前年並みの水準を維持しているものの、有効求職者の増加により、ここ3か月、求人倍率が1倍を下回る状況が続いている。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・北海道新幹線の開業2年目を迎える中、観光業の好調が続いており、夏場までは好調に推移するとみられるが、初年と比べると勢いに欠けている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・札幌圏の求人件数は前年とほぼ同じであったが、地方都市の求人件数は減少している。ただ、建設業、運輸業は人材不足の影響もあり、どのエリアにおいても企業の求人意欲が高い状況にある。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比較して求人件数が1割程減少している。
x	-	-	-